

＜別添＞ 医療関係者からのコメント

当該玩具については、^{ちつ}腔から体内へ侵入した今回の事故事例だけではなく、飲み込んだ場合は、^{ごえん}誤嚥や窒息も考えられることから、2名の専門家にコメントを頂きました。

当該玩具の子どもの^{ちつ}腔からの体内への侵入について

獨協医科大学 産科婦人科学 多田和美医師

1 ^{ちつ}腔から体内へ侵入した場合の危険性

幼児の^{ちつ}腔は非常に狭く、当該玩具などの異物が侵入するのはまれなことです。ただし、入浴中は身体が温められて筋肉が緩んでおり、通常よりは入りやすい状態にあり、腔内に入った時に出血や痛みがなくても、異物が入っている可能性があります。

いったん^{ちつ}腔内に異物が侵入すると自然に排出される可能性は低く、摘出しない限り長期間^{ちつ}腔内に異物が留まり、今回のような不正出血やただれ等が起こり、重くなると^{ぼうこうちつろう}膀胱腔漏⁸などの更に重い病気になる可能性も考えられます。

また、当該玩具はレントゲンに写りにくく、保護者や患者から^{ちつ}腔内に入ったとの訴えがないと、原因特定に時間がかかります。

2 保護者の皆様に御注意いただきたいこと

現状では、当該玩具が^{ちつ}腔内に入っていることを特定することや、身体を傷つけることなく、幼児の^{ちつ}腔からスポンジを取り出すことができる施設や技術がある病院は限られています。当該玩具が^{ちつ}腔に入ってしまう事故は、「発生はまれですが、発生した場合には大きな危険が伴う。」ということを多くの保護者の皆様に知っていただきたいと思います。

入浴中に当該玩具を使用する危険性を認識し、保護者の目の届く範囲で遊ばせましょう。もし、^{ちつ}腔に入ってしまった場合は、医療機関を早期に受診してください。

⁸ ^{ぼうこう}膀胱と^{ちつ}腔との間に穴が開いて通路ができたもの。

当該玩具による誤嚥^{ごえん}事故について

武蔵野赤十字病院 特殊歯科・口腔外科部長 道脇幸博医師

1 当該玩具を誤嚥^{ごえん}した場合の危険性

乳幼児は誤嚥^{ごえん}事故を起こしやすいので、通常はカプセル状の医薬品は処方しません。当該玩具はカプセルの形状でも、スポンジの形状でも、子どもの誤嚥^{ごえん}事故のおそれのある大きさです。

当該玩具の誤嚥^{ごえん}事故が起きた場合に最も危険と考えられるのは、気道に詰まって窒息することです。

カプセルは気道に入りやすく、また、気道の中の水分でカプセルが溶けてスポンジが広がることも、窒息のリスクにつながります。この点は、気道に入っても形状や性質が変わりにくいプラスチック製の玩具などとは異なる当該玩具の特性です。

カプセルの形状のまま細い気道の奥に入り込むと、奥でカプセルが溶けてスポンジが広がり、炎症を起こして、気管支炎や肺炎になることがあります。腔内^{ちつ}に当該玩具が入ってしまった場合と同じく、レントゲンで写りにくいため、医師に当該玩具を飲みこんだ事実が伝えられないと、原因を特定するのに時間がかかります。

当該玩具は、カプセル状の医薬品と同様の形状をしているため、大人が薬剤と間違えて飲み込むことも考えられます。この場合、多くは消化器管から排せつされますが、嚥下^{えんげ}機能が低下している高齢者などでは、子どもと同様に窒息や肺炎などを起こすおそれがあります。

2 保護者の皆様に御注意いただきたいこと

当該玩具が喉に詰まってしまったら、一刻も早く医療機関に行くことが重要です。最悪の場合、死に至るおそれもあるので、すぐに救急車を呼びましょう。

また、耳や鼻に当該玩具を入れてしまった場合は、喉に詰まった場合と比較して緊急性は低いですが、医療機関を受診しましょう。

医療機関を受診する際は、当該玩具の同型品やパッケージを持参して、医師に見せると、原因の特定と治療が円滑になります。

子ども医療電話相談

電話番号 #8000（全国同一の短縮番号）

小児科医師・看護師からお子さんの症状に応じた適切な対処の仕方や
受診する病院などのアドバイスを受けることができます。

子ども医療電話相談事業（#8000）について

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html>